

公開タグ	その他の関連情報
タイトル	アストラゼネカ社 COVID-19 ワクチン接種後の血小板減少症を伴う血栓症の診断と治療の手引き・第2版
主に該当する病期	急性期
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本脳卒中学会、日本血栓止血学会作成。</li> <li>・主にアストラゼネカ社 COVID-19 ワクチン接種後の 血栓症 (Thrombosis with Thrombocytopenia Syndrome:TTS) において、海外の症例の報告や病態が類似した疾患の診療を参考に作成されている。</li> <li>・血液検査や画像診断の結果、血小板の数の低下や、血栓が確認されれば、速やかに治療を開始する。治療では検査結果に応じて「免疫グロブリン製剤」を投与することが推奨されている。</li> <li>・TTS においてヘパリン類が病態を悪化させるという直接的なエビデンスは報告されていないが、HIT に準じ、現時点では未分画ヘパリンおよび低分子ヘパリンの使用は避けるのが妥当であるとされている。</li> </ul>
最も注目するポイント ＝理学療法にどのよう に役立つか？	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワクチン接種の普及に伴い、理学療法の対象者がワクチンを接種していること増加が見込まれ、ワクチン後の副反応の一つであるTTSについての知識を得ておくことは理学療法士にとって重要である。</li> <li>・TTS 後には、抗血栓薬、抗凝固薬、ヘパリンの使用を一時中止する可能性があるため、理学療法実施の際には出血や塞栓症のリスクに留意すべきである。</li> </ul>
リソースのリンク	<a href="https://www.jsts.gr.jp/news/pdf/20210601_tts2_3.pdf">https://www.jsts.gr.jp/news/pdf/20210601_tts2_3.pdf</a>
QRコード	 <p>https://www.jsts.gr.jp/news/pdf/20210601_tts2_3.pdf https://</p>
公開日	2021/6/5